

私の屋久島

資料の宝島に

松本 薫さん(屋久杉自然館)



屋久杉自然館は開館して12年を経過しました。開館時に抱えていた問題は、何と云っても手元には屋久島関係の資料が少なかったことでした。屋久島を理

解する資料が皆無に等しい状況でした。

この12年間、出版物はもちろんポスターや新聞の折り込みチラシに至るまで資料は手当たり次第に集めました。

その数も間もなく5000点を越えようとしています。古い資料を探し、入手するのは大変な労力と時間が必要です。その都度収集している同じ苦い思いをすることになります。

屋久島から正確な情報を発信し続けるためにも『資料の宝島』でありたいと思います。

台風のため日程を繰り上げ実施した検討委員会において、概ね次の内容を審議しました。①小杉谷事業所跡地に、東屋風の歴史展示資料棟を設け、森林環境教育の拠点施設を整備を図ること②屋久杉伐採後に回復した小杉谷周辺のヤクスギ育成複層林において、森林と人との係わりを学習できる自然観察路を整備すること③楠川歩道の辻峠から

森林軌道出合間の洗掘等荒廃が著しい箇所について、石積工法等による整備を行うこと④楠川歩道出合から大株歩道出合間の旧森林軌道沿いの数箇所のポイントに説明板や植物名板を設けること。今後、八月末までに報告書を取りまとめ、実施計画を作成後に事業着手することとなります。各整備計画の具体的な実施日程等は未定ですが、

小杉谷を森林環境教育の拠点に!!

「屋久島森林生態系保護地域パツファソン」整備事業

検討委員会の開催

七月二十六・二十七日、屋久島において本検討委員会(座長吉良今朝芳鹿児島大学農学部教授、十名)が開催され、小杉谷周辺での国有林の適切な保全と利用に対する情報提供等のあり方について検討しました。



小杉谷(大正12年撮影)

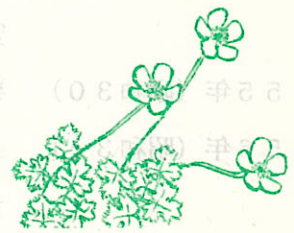
年度内事業として完了する予定です。なお、本事業による小杉谷地区周辺の施設整備をきっかけとして、小杉谷が縄文杉登山の一通過点ではなく、今後、関係機関が施設整備を図ることによって、森林環境教育の拠点基地として発展することが期待されています。また、今年

「ヤクサネゴヨウ増殖・復元緊急対策事業」検討委員会の開催

ヤクサネゴヨウは、その名のとおり屋久島と種子島の固有種で、環境庁のレッドデータブックの絶滅危惧種である希少樹種です。屋久島に約千五百本、種子島には約百本が生存していると言われています。

ヤクサネゴヨウの保全は急を要することから、この増殖・復元の計画等について学識経験者等の意見を聞くため、七月二十五日に九州森林管理局において検討委員会(座長山本千秋森林総合研究所生物機能開発部長、十四名)を開

屋久島の植物



ヒメウマノアシガタ (きんぼうげ科)

屋久島の固有種で、標高千六百〜千七百mの高層湿原に、ミスゴケに混じって生育する。茎は長さ十五cmほどで、地表近くをはっている。花は、直径一cm足らずで、黄色い光沢のある五枚の花弁を持つ。花期は、七〜八月。

催しました。全体構想として①緊急対策の養成、現地(周辺)への植栽②中期対策養成した苗木による採種園の造成を執行することとしました。ただし、自生地間における緊急度の相違、施業上の問題、遺伝子レベルの管理上の問題等を慎重に考慮、個別具体的に事業を進めて行くこととしました。



なお、本事業は、(社)ゴルフアターの緑化促進協力会の協賛を得て、今年度からの五年事業として行います。

屋久島自然休養林 白谷地区保護管理協議会を開催

七月二十一日に当会の会長である上屋久町長を座長として、離島開発総合センター会議室で開催されました。会議では、白谷雲水峽への観光客が世界自然遺産登録後七年目を迎えた現在も増加傾向にあることが事務局より説明がありました。会員からも、白谷雲水峽は、上屋久町の観光の目玉であり、今後もパンフレットの配付等により、積極的なPRに努めていくよう確認しました。

また、今年度の予算でトイレ施設の整備等が提案されました。なお、トイレについては、「ヤクスギランドの例に習ってチップ制を導入しては」との意見が出され、今後検討することとなりました。

最後に、新たな会員として、レンタカー協会を同協会の同意を得た上で加えることとなりました。

小杉谷歴史資料展示棟（仮称）開所式・閉山30周年記念祭について

小杉谷に、屋久島の森林施業の歴史等を展示し森林環境教育の拠点とする歴史資料展示棟を設置することとしており、この開所式を行います。また、今年は、旧下屋久営林署の小杉谷事業所が昭和45年に、大正12年に開所以来約半世紀の歴史を閉じてから30周年となっており、この記念祭が併せて行われます。

- 1 日時 平成12年10月13日（金） 午前9時30分頃から
- 2 場所 小杉谷
- 3 内容 歴史資料展示棟（あずまや形式）において、「平木」による屋根葺き体験、開所式を行う。併せて、閉山30周年記念の神事や記念植樹、トロッコ及び小杉谷生活の写真パネルの展示等を行う。
- 4 運営 閉山30周年記念祭については、上屋久町、屋久町、屋久島環境文化財団及び屋久島森林管理署等からなる実行委員会により運営する。
- 5 その他 参加を希望される方は、8月30日までに申し込みをお願いします。

問い合わせ先 屋久島森林管理署（中西，三城，堂菌）
TEL 09974-6-2111

小杉谷の歴史

- 1921年（大正10） 「屋久島国有林経営の大綱」（通称：屋久島憲法）が出される
- 1922年（大正11） 森林軌道着工
- 1923年（大正12） 森林軌道完成（安房～小杉谷 16km）
安房官行斫伐所（小杉谷事業所の前身）が屋久島国有林開発の拠点として開設
- 1924年（大正13） 安房官行斫伐所家庭教育場開設（生徒数12名）
- 1945年（昭和18） 粟徳国民学校太忠岳分校開校
- 1946年（昭和21） 安房官行斫伐所を安房事業所と改称
- 1952年（昭和27） 安房川中流の千尋滝で発電所建設（翌年完成）
- 1953年（昭和28） 小杉谷に電気がとまる
安房事業所を小杉谷製品事業所と改称
- 1955年（昭和30） 粟徳中学校太忠岳分校開校
- 1956年（昭和31） 上屋久村役場駐在所設置
チェーンソー導入（アメリカ製「ホームライト」）
- 1958年（昭和33） 生産力増強計画が打ち出され屋久杉の伐採が進む
- 1963年（昭和38） 上屋久町立小杉谷小学校と改称（生徒数107名）
上屋久町立小杉谷中学校 // （生徒数40名）
- 1964年（昭和39） 校歌制定（菅原杜子雄 作詞 浜田久夫 作曲）
- 1967年（昭和42） 小杉谷の伐採作業終了
- 1970年（昭和45） 小杉谷小学校，中学校閉校並びに閉校記念運動会開催
小杉谷事業所が閉山し，全員の移転が終了

小杉谷小・中学校 校歌

- 1 ああ 南海にそそり立つ
屋久の八重嶺のふとこ
われら生まれて 故郷を愛す
この山 この谷 この川の水
豊かに厳しき 故郷を愛す
- 2 ああ 三代にかおる杉あり
万年かわらぬ 花之江河あり
われら生まれて 故郷を愛す
この杉 この園 この村 この家
久遠のいとなみ 故郷を愛す
- 3 ああ 月日のめぐり果てなく
歴史の流れ いかになるとも
われら生まれて故郷を愛す
この父母 師の君 この友 母校
尽きせぬ えにしの 故郷を愛す